



Handa Float Festival

半田市を山車祭りでつなく！

地方創生★政策アイデアコンテスト

南山大学 神野ゼミ A班

浅田梨紗子 長与李帆 渡邊圭翔 池戸大海



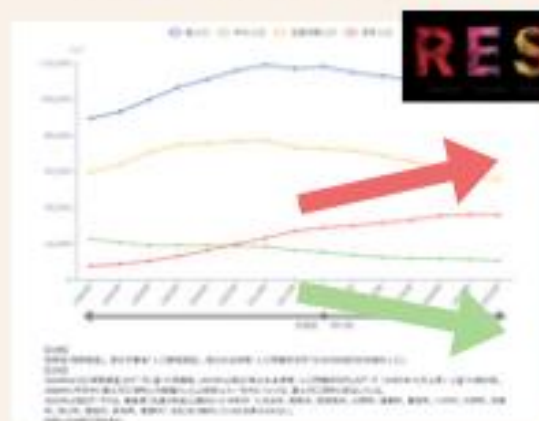
半田市とは…？

人口は116,481人(2024年8月現在)。
愛知県の知多半島に位置し名古屋から車で30分ほどの距離。
古くから海運業・醸造業で栄え知多半島の経済・政治の
中心都市として発展してきた。
蔵や赤レンガなどの歴史的な建築物を活かした観光スポットや
イベントも盛んであり、知多半島の文化の中心でもある。



データを使った半田市の分析

①半田市の人口推移

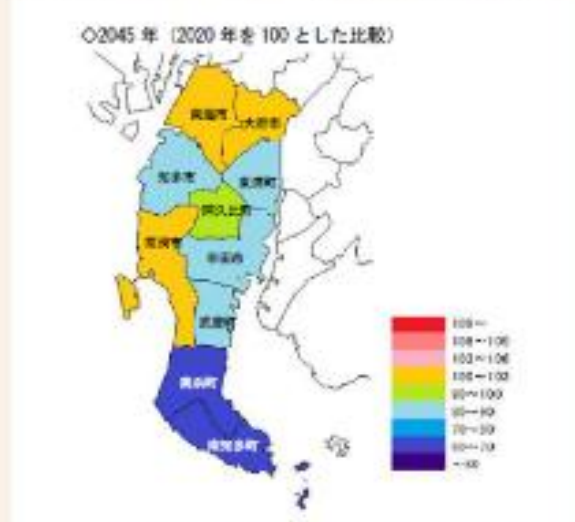


②知多半島の出生率



半田市の出生率は1.5を下回っており
知多半島TOPの大府市と比べると
低い水準

③国立社会保障・人口問題研究所の推計



出生率の減少が半田市の大きな課題！

ロジックツリーを使った仮説の構造化

半田市の課題

出生率が低い

若者の流出

地元への
愛着がない？

地元で就職
先がない？

子育て環境
が悪い？

生活基盤が
そろっていない？

遊ばせる場所
が少ない？

NEXT...

これらの仮説の検証



若者の流出の要因は…？

半田市の年齢別移動数



← 知多半島の産業生産額
メッシュマップ

半田市は知多半島の中で
第2位の生産額

- ・ 進学や就職とは関係ない時期での人口流出
- ・ 産業の規模からみても就職先は多く存在する



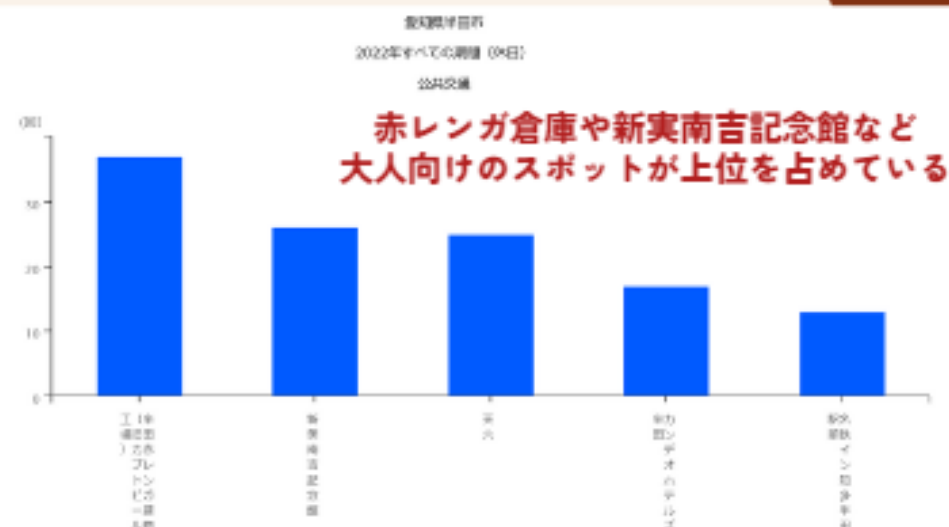
「地元での就職が困難だから」ではなく結婚や出産を機に半田市を出ていく人が多い…？

半田市の子育て環境

スーパー、飲食店、公園、病院の数は
知多半島でTOP



RESASの目的地分析



半田市ホームページより：<https://www.city.handa.lg.jp/handa-life/living/1005008.html>



生活基盤は整っているが子供向け施設が充実しているとは言えない

先行研究

地方自治体における教育支援・負担と出生率 (2016.3)

https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/h28/masuda_2.pdf

説明変数：教育の物価指数（教育全体、授業料等、補習教育）

被説明変数：合計特殊出生率、

回帰分析の結果

①教育全体の物価指数OLS、ランダム効果モデルいずれについても有意に負
→教育負担が高く、その結果出生率が低く抑えられているのであれば、教育負担を緩和する金
銭的支援のような教育支援策を行うことにより、出生率の低下を抑制することが可能かも

②授業料を説明変数に取ったら負であるが有意ではなく補習教育は有意に負である

→学校の授業から離れた教育が出生率に影響を与える

Rを使ったデータの分析

地方自治体における教育支援・負担と出生率 (2019)

説明変数：都道府県別教育費 (教育物価指数の都道府県ごとのデータが見つからず教育費を使用)

被説明変数：合計特殊出生率、一人当たりの県民所得(単回帰分析を避けるために追加)

回帰分析の結果

所得が1%減少すると出生率も1.346%低下する。

さらに、**政府の教育支出が10億円増加すると、出生率が0.047%増加する。**

実質的な効果は小さいが、正の関係がある。

Pr(>|t|): 0.0001257であり、p値が0.01未満であるため
教育費が出生数に有意な影響を与えていることが示された。

(1%水準で有意)

政府による教育の援助が増えると出生率が増加する



具体的な学びの場の提供が必要！

データを使った分析のまとめ

- ・ 半田市は昔ながらの文化や建物が残る街
- ・ **出生率が低下**しており生産年齢人口減少の傾向
- ・ **地元**に愛着を持つ機会を与えられずに半田市から出ていく人が多い
- ・ 学びを補助することで出生率にプラスの影響が予想される



1. 半田市の強みである文化を手軽に学べる機会を増やす
2. 子供の**預け場所**を増やす取り組み

これらの問題を解決に近づけるために私たちが着目したものは...?



NEXT

半田山車祭り

はんだ山車まつり

昭和54年から続く知多半島最大級のお祭り。

5年に1度開催される。

31台の山車が勢ぞろいし大競演を繰り広げる。

昨年は約50万人の来場者。

半田の春まつり

毎年半田市内各地で行われるお祭り。

半田市は古くからお祭りが盛ん
→地元で愛着を持ち、
地元で子育てしてもらおうきっかけに
なるのではないかな？



半田市の子育て支援の現状

半田市役所 子ども育成課の服部さんにお話を伺いました



子育て支援の現状



- ・半田市では子供の預かり場として、主に児童館・児童クラブが活躍している
- ・年々児童館・児童クラブの数は増加しており市営・民営合わせると全ての小学校区に1つ以上の児童館・児童クラブが置かれている
- ・児童館では定期的にモノづくりや体を動かすイベントが行われている

子育て支援の課題

- ・夏休みから冬休みの受け入れを始める児童館も増えているが、働く人不足に悩まされている
- ・半田市の取り組みについての市民の認知度が低く、市民にうまく活用されていない
→今はSNSはLINEのみでの発信
- ・民営の児童館に比べて市営の児童館はイベントが少ない

半田市で配布されている子育てハンドブック
ここに載っている内容が市民に知られていない



半田市の山車祭りの現状

＼半田市役所 観光課の上窪さんにお話を伺いました／

山車祭りと子供の関わりの現状

- ・市内の小学校に提灯を配布し提灯絵付けの体験をしてもらう取り組みを観光課で行っている
- ・子供達でも引けるような小さな山車の設置や展示
- ・山車祭りのボランティアとして高校生が活躍



小さな山車の展示(↑)と
提灯絵付け体験の様子(←)



山車祭りの課題

- ・半田の山車祭りは5年に一度の開催なので継続性が保ちにくい
- ・伝統に固執するあまり様々な制約(女性が山車に触れない・ある地域では血筋による制約など)があり、老若男女問わず扱うことが現状では難しい

→伝統を守りつつも新しい風を吹き込むことが重要！

私たちの考えた施策

学びの場の提供

子育てイベントの一環として
山車祭りをテーマにしたワークショップ開催

今回提案する学びの場というのは受験に使うような算数や英語ではなく、**地域の伝統や文化を学べるイベント**である。幼少期の伝統行事への参加は思考力や社会性を鍛え、地元の文化を知ることがアイデンティティ形成にもつながる。近年の酷暑により外で遊べない日も増えている中で子供が室内で学びながら遊ぶことのできるイベントは需要があるのではないかと考えた。



私たちの考えた施策



児童館や児童クラブのイベントとして
提灯づくり・小さい山車を引く体験会や
オリジナル法被づくりを行う

【POINT】

5年に一度の半田山車祭りだけでなく
毎年行われている春の半田祭りに合わせて
行うことで継続性を持たせる

ワークショップを通じて創造力や地元の歴史
に触れる機会を多く提供できる

観光課とも協力し

市営の児童館が率先してイベントを
主導することで文化保護と子育て支援に
力を入れていることを内外にアピール



イベントの運営は
半田市の高校生と共同で行う

【POINT】

半田市は高校が多い(公立5校)

高校生の手を借りて
働き手不足の中でもイベントを
開催できるように

企画から携わってもらうことで
高校生の学びの成長にもつなげる



SNSの有効活用

【POINT】

子育て支援面：

女性の利用者が多く20～30代の若者が
情報収集のために活用している
Instagramを中心にSNSでの発信を行う

児童館や児童クラブもInstagramを
活用することで半田市に
子育てしやすく学びの場の提供が備わっている
ことをアピールできる

知多半島TOPの

大府市の出生率1.71を目指そう！



地域経済
循環分析
by環境庁

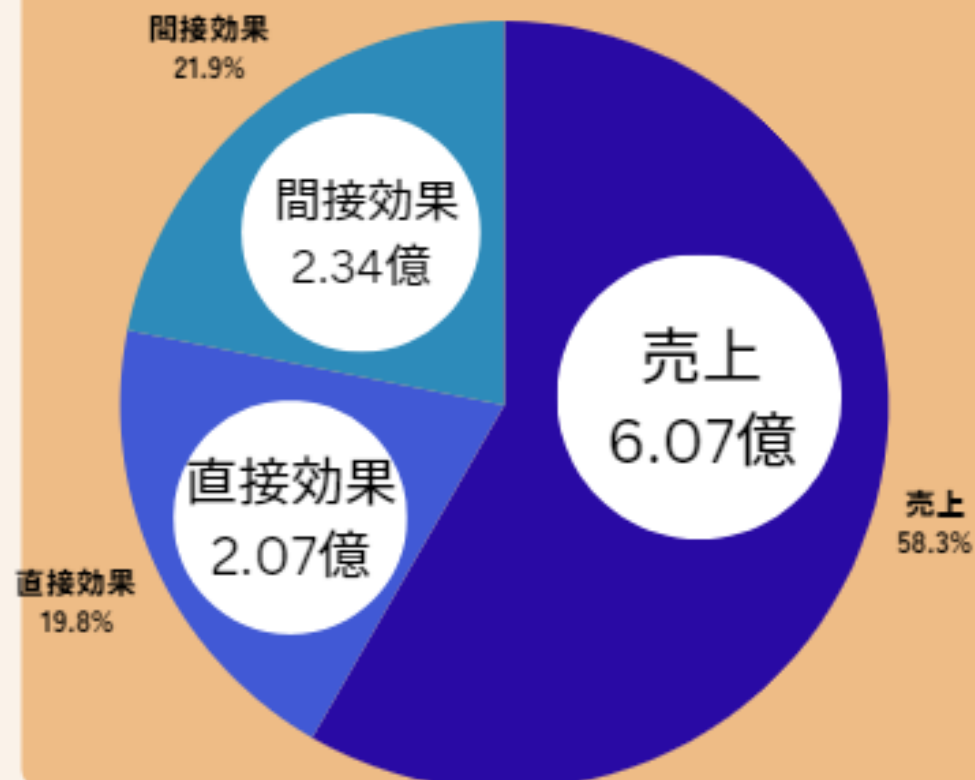
1

目標達成のため半田市の
子供の数が大府市に届け
ばいい！

MEMO <子供の数>	
半田市	18327
大府市	21042

2

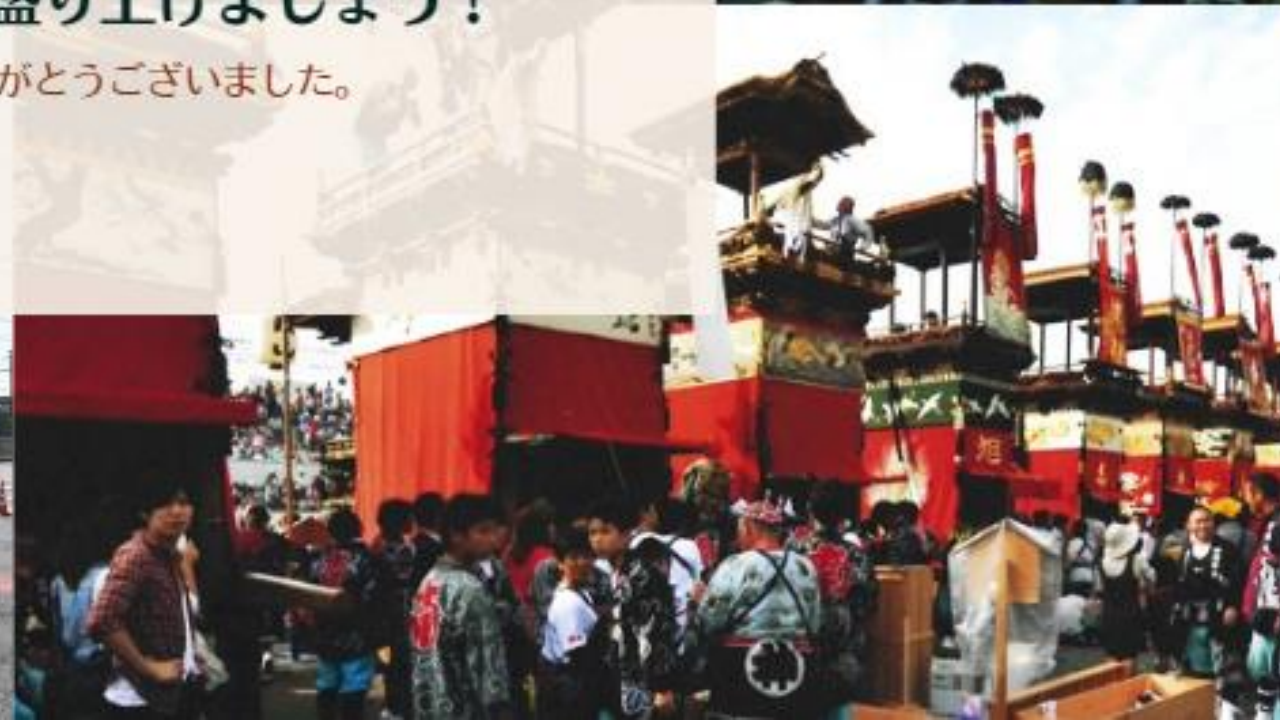
経済波及効果の測定





山車祭りを活用して
半田市を内側から盛り上げましょう！

見ていただき、ありがとうございました。



写真：右2つ山車祭りフォトコンテストより
<https://dashimatsuri.jp/dashimatsuri/dashimatsuri07/photo>
左2つ半田市役所観光課の方からの提供